なんきしえんがっこう　しえん

南紀支援学校　支援だより

令和４年11月　No.4

このようなことで困っていませんか？

- 鉛筆を持って書くことが苦手
- 手先が不器用
- 姿勢が崩れやすい又は、不安定である
- 模倣や体操が苦手
- じっとできずよく動く
- 力加減が難しい

何が困り感になっているのかを今回は、「感覚統合」の見方で考えていきましょう～！配慮点が見えてくるかも・・・。

みなさん、「感覚」という言葉から何を連想しますか？今回の支援だよりは、本校で行われた自立活動担当教員による「感覚統合」についての研修報告をさせていただきます。

感覚統合とは・・・

人間の発達過程で、「脳」が内外からたくさんの刺激を有効に利用できるよう、効率的に組み合わせることです。

＊発達の課程で、特に大切になってくる5つの感覚＊

- 視覚
- 聴覚
- 触覚
- 固有覚
- 前庭覚

さらに、重要な感覚！

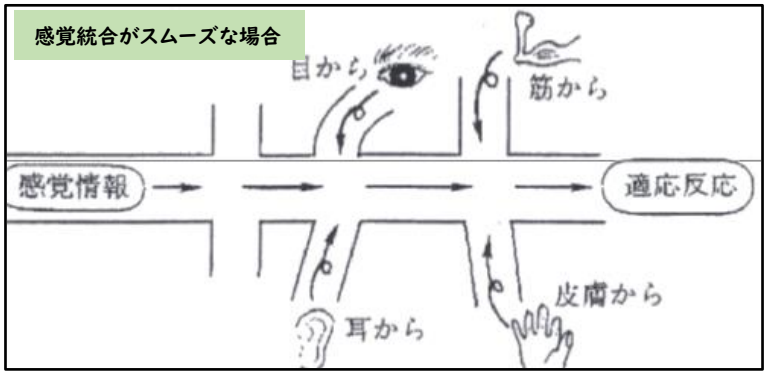
① 触覚
② 固有覚
③ 前庭覚

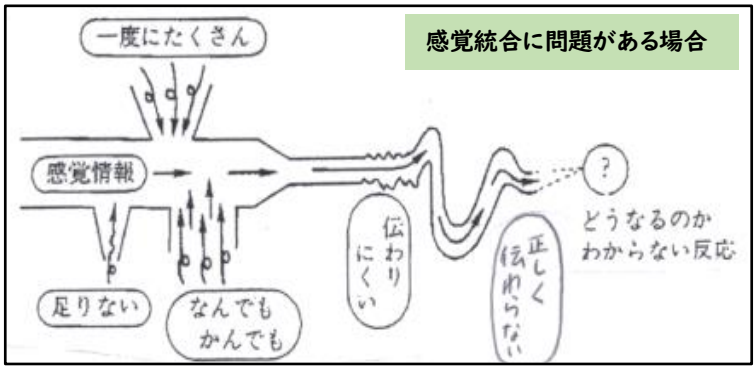
◆触覚
触ったり、触れられたりすることを感じる

◆固有覚
筋肉や関節の動きを詳細に感知する感覚

◆前庭覚
いわゆるバランス感覚

もし脳が感覚統合してくれなかったら、神経の交通渋滞で身動きができなくなる！



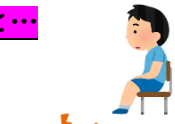


では…重要な３つの感覚が働かないとどうなるの？

固有覚がうまく働かないと…

＊力加減ができない
＊動作ががさつで乱暴と思われる
＊模倣や体操が苦手になる

前庭覚がうまく働かないと…



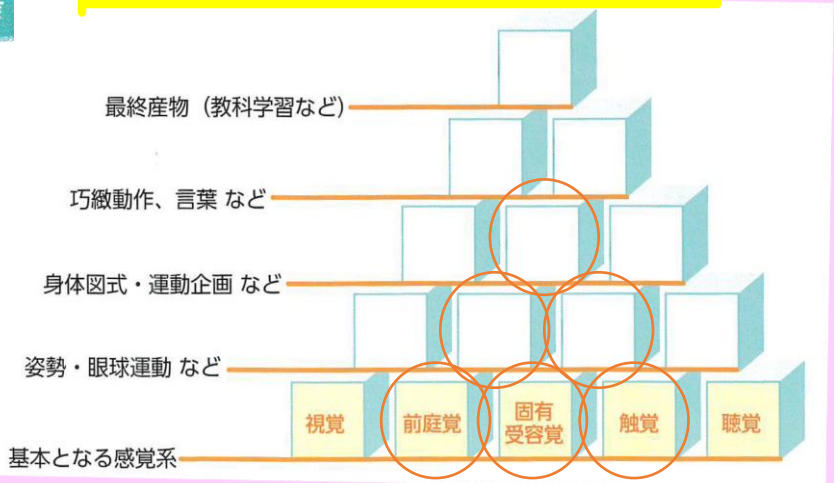
＊姿勢の崩れ
＊じっとできない・多動
＊重力不安・姿勢不安
＊眼球運動の未発達
＊タイミングがつめない

他の特別支援学校による感覚統合的な視点で取り組まれている事例を紹介いたします！

感覚統合の発達

感覚統合は積み木を積み上げるように発達する

例えば「視覚」と「聴覚」に課題があると、〇で囲んでいる以外の積み木は積み上がらないことから、運動や指先を使った動作が苦手となり学習面にも影響が見られるようになります。



事例

- 小学部３年
- 姿勢の崩れ
- 運動面の苦手さ
- ひらがな、カタカナを読むことはできるが書くことに苦手さがある

評価

- 前庭系がうまく処理できない（体の中心軸が意識しにくく、まっすぐ走ったり、両足をそろえてジャンプしたりすることが難しい）
- 眼球運動がスムーズに行えない
- ボディーイメージや運動企画が難しい

→これらのことが、運動の難しさや字の書きにくさに繋がっていると考える

指導内容

- 姿勢保持に関するポーズ（スーパーマン、かかし等）
- 体の中心軸を意識する動き（線上歩行、クロスウォーキング等）
- 眼球運動トレーニング等

指導開始４か月後

- 片足立ちが安定してきた
- 跳び箱を跳ぶことができた
- 字を書くことに対する抵抗感が減り、字が読みやすくなった

①楽しい活動

②ちょうど良いチャレンジとなる活動

③成功したときの達成感

「脳」が発達するためには、これらの３つの活動を感じたり体験したりすることがポイントになります。個々に合わせた細かいスモールステップでの指導が必要ですね！

子どもの行動につまずきが見られたとき、まず「どうして」その子が困っているのか、「どうやって」対応できるか考えていきましょう。子どもは、遊びなどを通して、様々な感覚を働かせて体を動かします。そこで、「感覚統合」という支援が役に立ちます！この機会に、感覚統合的な視点で子どもたちを見てみてください。運動（行動）だけで見るのではなく、体に入ってくる感覚にも目を向け、運動と感覚の双方の関わりから捉えることが大切です。何が困り感になっているのかな？と考えると、子どもたちの運動や行動の難しさの理解や指導につながります。

参考文献
・発達障害の子の感覚遊び　運動あそび／木村順／講談社
・「小学校で困ること」を減らす親子遊び１０／木村順／小学館